

H. ローラースキー競技大会(Rollerski Competitions)

396 ローラースキー競技大会 (Rollerski Competitions)

396.1 ローラースキー国際競技規則の定義 (Rollerski ICR Definition)

396.1.1 国際競技規則(ICR)のうちこのセクションに含まれる事項は、これまでの国際競技規則(ICR)で述べられてきたクロスカントリースキーの方法論とははつきりと異なるローラースキーの特殊な側面を焦点化し、述べようとするものである。

396.1.2 国際競技規則(ICR)ではローラースキーとクロスカントリー(ICR200-226.2 を含む) の共通した部分にある、明確な必要条件は用いられるものとする。

396.1.3 さらに、国際競技規則(ICR)のクロスカントリーセクションで用いている原理原則とフォーマット手順は、ローラースキーにおいても適用されなければならない。

396.2 競技用品 (Competition Equipment)

396.2.1 ローラースキーの競技用品は一般に共用されている商業製品を用いるものとする。

396.2.2 TD と OC は競技前と競技後に、ローラースキーの長さ、車輪の材質、硬度、フレームの長さの用品チェックを行なう。

396.2.3 ローラースキーの車輪の直径は 100mm 以上あってはいけない。

396.2.4 ローラースキーの全長は前輪の車軸から後輪の車軸までが530mm 以下であってはいけない。

396.2.5 クラシカル競技では、ローラースキーのメカニック検査をしなければならない。

396.2.6 クロスカントリースキー用スキーポールを用いなければならない。

また、ポールの先端には、直径 30mm 以上の安全な硬質プラスチック製の保護材を使用しなければならない。このプロテクション材は、金属製チップ位置の最大 45mm 上方に設置しなければならない。(バスケットリングの装着義務)

396.2.7 安全ヘルメット（e.g.DIN EN 又は同等品）と目を保護するもの（サングラスなど）は公式トレーニング中と競技中は使用しなければならない。

396.2.8 シューズ（ブーツ）はクロスカンリースキー用のビンディングでローラースキーに固定されていなければならない。ローラースキーの交換は343.12.2項に従わなければならない。

396.2.9 選手は、競技中に、用品の交換又は修理をすることを認められている。しかし、選手は、交換の用品又は交換の道具を手渡されることを除き、このことを外部の如何なる援助を受けずに行わなければならない。

396.2.10 大会主催者とジュリーは競技の安全性と公平性を提供するため、事前に招待状で告知することで、ローラースキーの用具・備品（車輪など）の技術的条件を、制限することができる。

396.2.11 大会主催者は、エントリーした全選手に対し、公式ローラースキーサプライヤーを通して、ローラースキーを提供できる。これは公式招待状にはっきりと公表されなければならない。ローラースキーは、ジュリー・メンバー・監視のもとドローにより選手に提供される。

396.2.12 大会主催者がローラースキーを提供する場合、競技中のローラースキーの交換は、343.12.2 と 343.12.3 に従い、オフィシャル・サービス・ポイント（ボックス）に限って行う。

396.2.13 大会主催者がローラースキーを提供する場合、オフィシャル・トレーニング中又は、競技開始前のローラースキーの修理は、主催者が用意したオフィシャルサービス・ポイントに限って行う。

396.3 競技フォーマットとプログラム (Competition Formats and Programs)

次の競技フォーマットと推奨距離を用いて競技会はクラシカルとフリーどちらの走法でも実施することができる。

396.3.1 以下のフォーマットと距離で、クラシカルフリーのいずれでも行うことができる。

競技フォーマット	競技距離(Km)	コース長(Km)
インターバル・スタ	2.5,3.3,3.75,5,7.5,10,	2.5,3.3,3.75,5,7.5,

ート競技	15,30,50	8.3,10,12.5,15,16.7
マス・スタート競技	10,15,30,50	2.5,3.3,3.75,5,7.5, 8.3,10,12.5,15,16.7
ポピュラークロカン	なし	なし
スキーアスロン競技	5+5,7.5+7.5,10+10, 15+15	2.5,3.3,3.75,5,7.5,10
パーシュート競技 (後半)	5,7.5,10,15	2.5,3.3,3.75,5,7.5,10
リレー競技 (3又は4人、男女混合可)	2.5,3.3,5,7.5,10	2.5,3.3,3.75,5
個人スプリント	0.2—1.8	0.2—1.8
チーム・スプリント	2×(3-6)×0.8-1.8	0.4—1.8

この表は、周回コースで行うレースに対して有効であるが、周回数が多くなる短いコースを選ぶとき、スタート形式とコース幅を考慮しなければならない。実際の競技距離は±5%変動できる。インターバル・スタート、マス・スタートとスキーアスロン競技はアンジュレーション地形や登りコースで実施できる。200mまでの個人スプリントは、平坦地又は登り坂コース（最大10%の平均斜度を許される）で実施できる。

396.4 コースとスタジアム(Course and Stadium)

396.4.1 ローラースキー競技はアスファルトまたはそれに準じた（類似した）人工的なもの、又は固められた自然の路面で行われる競技である。

396.4.2 コースは競技者の安全が最優先された設定でなければならない。

396.4.2.1 ローラースキー競技大会用コースは、ホモロゲーション（公認）の必要はないが斜度のきつい登りを幾つか設けること。

396.4.3 コースに沿って、又はコース脇にあるような障害物や危険なものは、すべて取り除く、もしできない状況があるならばそれらにははっきりとして目印を付け、必要な安全マット

などを取り付ける。

396.4.4 推奨されるコース基準：

レースフォーマット	クラシカル走法	フリー走法
個人スタート		
コース		
コース幅 (最小値)	3m	4m
スタート		
コリドー数	1	1
フィニッシュ		
合計の幅 (最小値)	3.6m	6m
コリドー数	3	3
パーシュート		
コース		
コース幅 (最小値)	4m	6m
スタート		
コリドー数	2	2
フィニッシュ		
合計の幅 (最小値)	3.6m	6m
コリドー数	3-4 ※)	3-4 ※)
マス・スタート、スキーアスロン		
コース		
コース幅 (最小値)	4m	6m
スタート	矢じり形グリット	矢じり形グリット
コリドー数	6	8
フィニッシュ		
合計の幅 (最小値)	4-5m	6-8m
コリドー数	3-4 ※)	3-4 ※)

※ コリドーの数、幅、長さは競技形式と、フィニッシュ・エリアのレイアウト（登り、平地など）により、 Jury が決定する。

396.4.5 下りに急なカーブを設けない。カーブが危険とみなされた場合は、OC と Jury がスピードの減速措置を取る（カーペットや人工芝など）

396.4.6 安全で安心して使用できるウォーミングアップとクールダウン・エリアは、競技コース近くに設ける。

396.5 一般的なコース準備(General Course Preparations)

396.5.1 競技コースは少なくとも競技前日には、インスペクションや公式練習のために準備しておかなくてはならない。

396.5.2 競技コースへの一般の通行を遮断する。ただし、競技者、大会主催者、警備員、ジュリー、警備車両、テレビ中継車は、競技中又は、オフィシャル・トレーニング中の競技コースへの立ち入りを認める。

396.6 競技者に対する条件(Requirements of the Competitors)

396.6.1 競技期間は7月1日から6月31日までとする。年齢区分はクロスカンントリー ICR341 年齢カテゴリーの条項を参照。

396.6.2 グループ分けの方法

396.6.3 特別シードについてはFIS ローラースキー WC/WSC ルールに準ずる。

396.7 給水所(Refreshment Station)

396.7.1 競技が8 km、又はそれ以下の距離では、フィニッシュ・ラインを越えてからのフィッシュ・ゾーンでのみ許される。

396.7.2 8 km以上30 km以下の競技では、乗り物を使うことなくコース上での提供は許される。30 km以上の競技ではジュリーの裁量によりオートバイを使うことが許される。

396.7.3 登りレースではジュリーによって給水所の位置を決めることができる。

396.8 スタートとフィニッシュでの要件(Start and Finish Requirements)

396.8.1 スタート・ライン、フィニッシュ・ライン、コリドーと中継ゾーンは、はっきりと表示されなければならない。

396.8.1.1 フリー・テクニックのマス・スタート 競技において、スタートからのスケートニング禁止ゾーンは、マークで明示しなければならない。

396.8.1.2 ワールド・カップにおけるマス・スタートとパーシュート・スタートではスタートのスケーティング禁止区域やフィニッシュ観察のため、少なくとも2台のデジタルビデオ・カメラが用意されなければならない。

396.8.1.3 スタート地点とフィニッシュ地点の連絡のため、無線や電話がなければならない。

396.8.2 フィニッシュ・エリアの要件(Finish Area Requirement)

396.8.2.1 ローラスキー・ワールド・カップ、ローラスキー世界選手権ではフィニッシュ・コース撮影のため最低でも2台のデジタルビデオ・カメラが用意されなければならない。またジュリー室ではビデオを再生できるよう準備しておく。

396.8.2.2 フィニッシュ・ラインにつながるフィニッシュ・ゾーン（ロールアウト・ゾーン）はスプリント競技では最低70m必要である（斜度に応じる）。
ディスタンス競技ではジュリーが長さを決定する。フィニッシュ・コントロールラインはロールアウトゾーンの後に関なければならない。選手はコントロールラインを横切るまでローラスキーを脱ぐことを許可されない。

396.8.2.3 スタート・エリア、フィニッシュ・エリアおよびエキ스チェンジ・エリア（中継ゾーン）では、観客や無許可の人から完全にフェンスで防護され安全でなければならない。

396.9 エクスチェンジ・ゾーン(Exchange Zone)

396.9.1 リレー又は、チーム・スプリントの中継ゾーンは、幅は最低10m、長さは最低15mとする。

396.9.2 エクスチェンジ・ゾーンの始まるの部分は、はっきりとしたラインによりマークされなければならない。フィニッシュする選手の先端ホイール部分がエクスチェンジ・ゾーンのラインに達したとき、続く選手はエクスチェンジ・ゾーンからの出発が許される。選手間の身体的な接触は必要としない。

チーム・リレーやチーム・スプリントの中継時の不正スタートの制裁は実際のタイムプラス最少15秒のタイム・ペナルティーである。

396.10 クラシカル・ローラスキー・テクニク (Classical Roller Ski technique)

396.10.1 クラシカルレースではボールの長さは身長 \times 83%プラス2cmを超えてはならない。
測定値表はICR343.8.2。